

平成30年5月

## 普及活動報告



エコファーマーによる田植えの実演

### 環境にやさしい米づくりを目指して！

### エコファーマー申請者を支援

(南丹市：2日)

美山町鶴ヶ岡地域で、(有)タナセンが環境にやさしい米づくりに取り組んでおり、地域への普及の一環として田植え作業の実演会が行われました。有機質資材の施用(雑草の堆肥化)及び化学肥料の低減(油かすを用いた栽培)、化学農薬の低減(除草機、米ぬか除草)技術を実践されていますが、今年この取組に新たに認定申請予定の2名も参加しました。

認定申請予定者からは「今後の米づくりは環境にやさしい農法などの付加価値が必須」「量よりも質や食味にこだわりたい」など多くの前向きな発言がありました。普及センターでは引き続き、環境にやさしいおいしい米づくりを目指す生産者を支援していきます。

場 所 美山町盛郷

出席者数 9名

既認定の2名は(有)タナセンの構成員、新規2名は非構成員。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年5月

## 普及活動報告

### 水稻現地試験ほ場で田植えを実施 ～京都オリジナルの高温耐性良食味米の 選定～

(亀岡市：14日)



系統ごとに田植え

温暖化の影響を受けない京都オリジナルの良食味米を育成するため、農林センター作物部が選定した3系統の現地適応性試験を行っています。普及センターが亀岡市の生産者に依頼し、育苗から協力を得て実施しました。対照品種をコシヒカリとし、各系統の試験区を設置しました。

普及センターは、生育調査、収穫期調査を行い、1系統に絞り込むためのデータを収集します。

場 所 亀岡市宮前町  
出席者数 5名



系統ごとに立て札を設置

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年5月

## 普及活動報告



開講式・主催者あいさつ



受講生の自己紹介



土壌肥料の基礎講義

### ～就農サポート講座開講式を開催～ 障害者就労支援事業所の農業指導員も対象に

(全域：15日)

開講式では、農林商工部長や各市町来賓から激励を受けた後、受講生が自己紹介を行い、農業に対する抱負を語りました。講義では、普及センター職員が土づくりのポイントや肥料の種類と性質、植物の生理障害などの基礎知識を説明しました。

受講生から「農業用語や肥料の知識をしっかりと学び、今後の就農、障害者への農業指導に臨みたい」との声が聞かれました。今後、農林センター等とも連携しながら、病虫害・鳥獣害対策、経営、夏・秋冬野菜、黒大豆、農業機械の安全操作とメンテナンスなどの講座と、現地先進農家の視察研修を組み合わせ、10月までに合計10回の講座を実施します。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 45名

今年度の受講生は30名。21歳～68歳までの南丹管内における実践農場研修生や就農間もない農業者、集落の担い手及び障害者就労支援事業所の職員。平均年齢40歳。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年5月

## 普及活動報告

### 需要に応える朝市になる為に ～黒大豆栽培講習会を開催～

(亀岡市：21日)



黒大豆栽培講習会の様子

普及センターから、黒大豆のほ場準備、排水対策、播種、育苗および病害虫防除や出荷調製等について説明を行いました。その後、生産者からの質問等に答えました。

生産者からは「黒大豆を栽培してみようと思った」「JAさんに相談してみる」と前向きな声が多く聞かれました。今後も普及センターは生産者の技術支援を行っていきます。

場 所 ガレリアかめおか  
出席者数 19名

朝市部会員：113名（平成30年5月10日現在）H29年黒大豆出荷者7名

平成30年5月

## 普及活動報告

### 白大豆の生産性向上に向けて ～弾丸暗渠による排水対策～

(南丹市：23日)



白大豆のほ場にて暗渠施工を実演

美山町鶴ヶ岡地域で、排水対策による収量・品質の向上を目指し、弾丸暗渠施工の実演会が開催されました。普及センターは、根の張りを良好にするために3m間隔、40cmの深さでの暗渠施工を指導し、硬盤破碎を実践することができました。

生産者からは「白大豆の収量アップや品質向上にこだわりたい」「美山町の生産者を少しでも増やしたい」など前向きな意見がありました。

地元の実需者は、美山産白大豆の増産を期待しており、普及センターは排水対策による白大豆の生産性向上を支援していきます。

場 所 美山町舟津

出席者数 7名

今年の排水対策実施面積 (30年度：生産者3名、栽培面積2.3ha)

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年5月

## 普及活動報告

### ～黒大豆生産の省力化を目指して～

#### 黒大豆除草剤試験

(京丹波町：28日)



は種後の除草剤散布

黒大豆栽培において、除草は非常に労力がかかる作業であり、省力化が求められています。そこで、京丹波町農業技術者会議が実施主体となり、初期除草剤及び生育期除草剤の実証試験を行っています。この日は機械によるは種後、2種類の初期除草剤の散布を行いました。

1か月後を目処に初期除草剤の効果を調査し、その成果を生産者に報告することとしています。あわせて中期除草剤試験を同一ほ場で行い、初期及び生育期除草剤の効果的な散布体系の確立を目指しています。

場 所 京丹波町安栖里

出席者数 8名

京丹波町農業技術者会議は、京丹波町、農業公社、農業共済、JA、振興局、普及センターで構成。

H29京丹波町黒大豆栽培面積：60.9ha。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年5月

## 普及活動報告

### 移住定住ワーキングチームに参画

(全域：30日)



ワーキングチームでの検討状況

南丹振興局から「いなかぐらしセミナー」に参加された移住希望者を対象に行ったアンケート結果および、今後定期的  
に開催予定の移住セミナー等について情報提供があり、普及センターからは今年  
度から重点課題として取り組んでいる「集落における移住者の受け皿体制づくり」  
について、美山町又林地区の進捗状況を報告しました。

参加者から「別に設置している移住と就農の窓口が連携することが必要」「空  
き家と空き農地の有効活用を進めたい」など、南丹地域で移住者・就農者を確保  
するための前向きな意見が多く出されました。

普及センターはワーキングチームでの情報共有を進め、新規就農者の移住を支援していきます。

場 所 南丹市役所

出席者数 13名

移住定住ワーキングチームでは、移住コンシェルジュやNPO法人、2市1町が集まり、定期的に情報共有を行っている。南丹管内の移住促進特別区域は、平成30年3月現在27地区（亀岡市6、南丹市12、京丹波町9）

京都府南丹農業改良普及センター